

委託事業実施内容報告書

平成 23 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】a 読み書き会話教室パートナースキルアップ研修

受託団体 大阪府教育委員会

1. 事業の趣旨・目的

学習者の増加や多様化により、個に応じた1対1の学習スタイルから、グループ学習を取り入れるなど、学習の進め方や教材準備などにさまざまな工夫が必要となってきている。また日本語教室の運営者や支援者には、学習者とともに学ぶことや人権の観点を持って取り組んでいただくことも重要である。

そのため、地域の日本人との実践的な会話等を学習活動に取り入れることや、学習者の声を受け入れる姿勢を育む事を目的として、各専門家（学識）からの講義と実践報告（ケーススタディ）を組み合わせた構成で講座を行い、日本語教室等の運営者や支援者のスキルアップを行う機会を提供し、新たな教室の設置や拡大、学習内容の充実等を図る。

講座は大阪府教育センターの他、府内各地域で開催した。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月23日	HRCビル	別紙議事録 のとおり	全体会と地区別 ブロック会の 開催日程や内容に ついて	・受講者を拡大するため、日程、会場、講師及び効果的な案内のあり方について協議した。
11月2日	大阪府庁 新別館 研修室7・8	別紙議事録 のとおり	全体会の内容について 地区別ブロックの進捗 状況について	・全体会については役割分担や懸念事項の確認をした。
1月17日	新別館北館 会議室7・8	別紙議事録 のとおり	全体会のめとめと報告 地区別ブロックの進捗 状況について	・受講者アンケートの分析を行い、今後の支援者拡大に向けて解決すべき課題を整理した。



* 第1回 運営委員会（大阪府識字・日本語学習市町村担当者会議 ネットワーク拡大部会）

1 目的

- 府内における識字・日本語教育の現状や課題、識字・日本語問題に関する啓発等について研究協議するとともに、担当者のネットワーク化を図る。
- 府と市町村が連携した識字・日本語活動の活性化に向け、文化庁事業「『生活者としての外国人』のための日本語教育事業」（ボランティアを対象とした実践的研修）を活用して日本語学習指導者スキルアップ研修を実施する。

2 日時 平成23年6月22日（水） 14:30～17:00

3 場所 HRCビル（^{アイアイ} A I A I おおさか）10階 特別会議室（別紙参照）

4 出席者 別紙出席者名簿のとおり

5 内容

- あいさつ、出席者等の紹介
- 平成23年度 識字・日本語学習活動の推進について
平成21年度「地域における識字・日本語学習環境実態調査」より
新たな教室や支援者を拡大するための支援や多様化国際化する
学習者に対応できる教室運営支援が必要である
- 実践研修会の開催について
全体研修会およびブロック別研修会を実施する。

〔方針〕

- ①教育委員会や首長部局等の自治体内はもとより、市町村間、大学、国際交流協会、関係NPOのネットワークを構築し、識字・日本語学習についての研修、ノウハウや人材の流動化を進める。
- ②各教室や市町村単位で開発が困難な学習教材、不足するボランティア人材など、新たな教室の設置や拡充に役立つ情報などを上記ネットワークやホームページ

で提供する。また、これらのことは府と市町村が一緒になってやっていく。

◇全体研修会について ⇒ ネットワーク拡大部会で企画

◇地区別研修会について ⇒ ブロック別担当者会議で企画

○その他（情報交換）

* 第 2 回 企画委員会（大阪府識字・日本語学習市町村担当者会議 ネットワーク拡大部会）

1 目的

2 日時 平成 23 年 11 月 2 日（水） 10:30~12:00

3 場所 大阪府新別館北館 4 階 職員会議室 7、8

4 出席者 別紙出席者名簿のとおり

5 内容

1. あいさつ／地域教育振興課首席指導主事

2. 今年度の各取組みの進捗状況について

○資料により説明／地域教育振興課主任指導主事

○各ブロック代表（資料参考）

<豊能ブロック：豊中市教育委員会地域教育振興課>

- ・学習支援者の実践交流を中心に 1 月 29 日に研修会開催を検討中。
- ・箕面市で開催。

<三島ブロック：島本町教育委員会生涯学習課>

- ・例年 2 月頃に識字教室中心で学習者 10 名、支援者等 15 名程度で研修会実施していたが、昨年度から実施していない。
- ・本年度は何らかの形で交流会を実施すべく協議している。

<北河内ブロック：門真市教育委員会地域教育文化課>

- ・今年度は 2/12 に実施。各教室からの取組み報告と学習の進め方についての協議中心。

<中河内ブロック：八尾市教育委員会生涯学習課>

- ・研修会開催に向け検討中。

<南河内ブロック：松原市教育委員会地域教育振興課>

- ・1/22 富田林市で開催。
- ・担当者会議を重ねて内容を協議している。

<堺・泉北ブロック：堺市教育委員会地域交流課>

- ・2/26 和泉市で開催。

<泉南ブロック：岸和田市生涯学習課>

- ・昨年度に引き続き第 2 回目の実施に向けて協議中。

<大阪市教育委員会生涯学習担当>

- ・地域日本語交流教室の支援者中心の研修会を市総合生涯学習センターで 3 月実施。

○その他（情報交換）
（研究会）

3. 「2011 よみかき全体研修会」の役割分担について

○研究会事務局員から

- ・現時点での参加申込は約 300 名。最終 400 名程度の見込み。
- ・全体会は大阪市内の教室からオガリ劇を披露する。
- ・G「マジックでつながるひろば」は今年度できないので、変更予定。
- ・進行役は夜中、教室支援者、識字日本語連絡会など複数のメンバーで実施。
- ・記録担当者には各分科会の様子をまとめていただきたい。昨年度と同様、報告の雛形は事前に識字・日本語研究会からお知らせする。
- ・記録用の録音機器（必要とする場合）は各自でお願いしたい。
- ・報告は、司会や記録担当者の感想も含め、当日の雰囲気が伝わるような内容で作成して欲しい。

4. 協議：（テーマ）識字・日本語教室の状況 ～課題の共有～

○市町村別外国人登録者数と教室数

- ・説明／研究会事務局員
- ・府内では 40 人に 1 人が外国人であり、大阪市内は 20 人に 1 人。
- ・大阪市内には 3 区教室のない区がある。
- ・教室のない町村の状況やニーズを聞き取りし、教室立ち上げの支援や更なる教室の増加に努めていきたいと考えている。
- ・中学校夜間学級の市町村別在籍者数からわかるように、教室のない市町村からも夜間学級に通っている人がいる。識字・日本語教室は夜間学級を卒業した後の受け皿としての役割も果たしている。

○識字・日本語研究会ホームページ／研究会事務局員

- ・情報発信部会にて、市町村の動き、各教室の情報、民間団体に関する情報など提供いただくようお願いする。
- ・識字・日本語に関する様々な情報を集め、発信していきたい。

○大阪教育大学との連携／地域教育振興課主任指導主事

- ・7 月から「地域日本語学習ボランティア講座」を開催している。

ネットワーク拡大部会 次回開催予定：1 月中旬

* 第 3 回 企画委員会（大阪府識字・日本語学習市町村担当者会議 ネットワーク拡大部会）

- 1 目 的 2011 よみかき全体研修会の総括
地区別別研修会実施に向けた進捗状況の共有
- 2 日 時 平成 24 年 1 月 17 日（火） 10:30~12:00
- 3 場 所 大阪府新別館北館 4 階 職員会議室 7、8
- 4 出席者 別紙出席者名簿のとおり
- 5 内 容

- 1 あいさつ

- 2 平成 23 年度の取組み報告

○資料により説明／地域教育振興課主任指導主事

- ・教材作成は、就労に関わるような内容を盛り込み、対話をしながら学んでいけるような教材というコンセプトで作成。識字・日本語研究会の HP に 4 月に掲載予定。ご活用いただくとともに、各教室への情報提供も併せてお願いしたい。
- ・ブロック別研修会は、この先 2 月下旬にかけて各ブロックで実施。
- ・研修会の開催にあたっては、市町村の広報に記事を掲載したり、中学校夜間学級にもチラシを届けていただくなど、広く周知していただいたところもあった。
- ・府内全体の「よみかき全体研修会」は、大阪府教育センターで 11 月 20 日（日）に開催され、識字・日本語教室や夜間中学校等、50 団体、約 500 人の参加であった。
- ・日本語学習指導者養成研修は堺・泉北ブロックと泉南ブロックの共催で実施した。
- ・大阪府教育委員会では、今年度から、識字・日本語学習における大阪教育大学との連携を進めており、日本語指導者リーダー養成研修として「地域日本語ボランティア講座」を前期対人援助編、後期日本語学習編に分けて実施した。

○識字・日本語研究会より

- ・研究会として大事にしていることは、各教室とのネットワーク。学習者、支援者とお話していきたい。また、市町村の連携がどこまで深まるか。今年度は担当者会議に参加させていただき、沢山の方々と出会えた。
- ・府の事業、文化庁、文科省の事業を行っている。この中で、教材を作成しているが、ゼロビギナー向けの教材としている。これは、日本に来て、全く会話ができない人は、教室でも対応できないとの声があり、これを受けてのもの。
- ・4 月以降ホームページに掲載するが、富士火災クラブが協力いただき、印刷できることになった。各教室に数部配ることはできると思う。

- ・文化庁の事業で、2月5日大阪市のブロック研修会を行った。識字・日本語学級の指導者研修会で、今後の識字のあり方を議論した。今年の夏、府内の全体研修会を考えているが、これに向けて行った。

3 「2011よみかき全体研修会」のふりかえり

- ・アンケートの集計より、概ね好評であった。
- ・全体会は識字の取組みの歩みがよくわかったと好評であった。日本語学習活動を活性化していく上でも、大阪ですすすめられた識字の取組みは大切な蓄積であるはずだ。
- ・学習者の作文を読む機会を得て、その一つ一つの重さを改めて感じた。
- ・外国人の方の参加も多く、さまざまな学習者に接することができる貴重な研修の機会になった。
- ・資料コーナーは好評であった。府だけでなく市町村の配付物やPR物、教室案内も置けばいい。

4 各ブロックからの報告（地区別研修会の実施について）

<豊能ブロック／豊中市教育委員会地域教育振興課>

1/29（日）に開催、各教室の相互交流を含め、課題を整理。

<三島ブロック／大阪府教育委員会地域教育振興課>

（島本町教育委員会欠席のため）

2/16（木）に開催、富田識字学級学習者からの聞き取りを実施。

<北河内ブロック／門真市教育委員会地域教育文化課>

2/12（日）に開催、各市の取組みから学ぶ。

<南河内ブロック／松原市教育委員会地域教育振興課>

1/22（日）に開催、小グループに分かれてのワークショップを実施。

<泉北ブロック／堺市教育委員会地域交流課>

2/26（日）に開催、全体会と分科会を実施。

<泉南ブロック／岸和田市教育委員会生涯学習課>

2/25（土）に開催、識字学級、日本語教室の実践報告を受けて実施。

<大阪市／大阪市教育委員会生涯学習担当>

3/10（土）に開催。

5 その他（情報交換）

3 講座の内容について

- (1) 研修講座名
「平成 23 年度 読み書き会話教室 パートナースキルアップ研修」
- (2) 研修の目標
増加する学習者に対応するために必要な新たな教室の設置や教室の拡充等に携わる人材を育成
- (3) 受講者の総数
510 人
- (4) 開催時間数
25.5 時間（全 9 回）
- (5) 参加対象者の要件
日本語学習活動に関係する大阪府内在住、在勤、在学の方
- (6) 受講者の募集方法
(全体)
識字・日本語研究会HPに掲載 ⇒ FAXもしくは電話で研究会へ申し込む
各市町村担当者を通じて各教室へちらし送付
(地区別)
各市町村の広報誌に掲載
各市町村公民館等にちらしを置き、担当者が教室運営者・支援者等に案内
申し込みは各地区担当者に FAXもしくは電話で申し込む
- (7) 研修会場

回(※)	開催日	時間数	受講人数	会場
①	11月20日	4時間	510人	大阪府教育センター
②	1月22日	2時間	28人	富田林市消防署
③	1月29日	2時間	50人	箕面市立市民会館
④	2月12日	2時間30分	253人	とよなか国際交流センター
⑤	2月16日	2時間	12人	高槻市富田ふれあい文化センター
⑥	2月25日	2時間30分	19人	泉佐野市下瓦屋人権文化センター
⑦	2月26日	4時間	107人	和泉市立人権ふれあいセンター
⑧	3月10日	2時間30分	50人	大阪市立難波市民学習センター
⑨ 参考	3月18日	4時間	100人	

※⑨は、実施時期を過ぎていますので、経費については計上していませんが参考に記載します。

- (8) 使用した教材・リソース
「もっとしゃべろ！！～じぶんでつくる学習ノート～」
(2009年 人権教育推進のための調査研究事業大阪府市町村協議会)
「日本語おしゃべりのたね 第2版」西口光一（スリーエーネットワー2011年）
「初めての日本語文法」野田尚史（くろしお出版1991年）

(9) 講座内容

回(※)	開催日	時間数	受講人数	会場	内容
①	11月20日	4時間	510人	大阪府教育センター	ケーススタディ 全体会：学習者と共に学ぶ、学習者の発表 分科会：効果的な日本語の会話方法を、小グループに分かれて実践
②	1月22日	2時間	28人	富田林市消防署	ケーススタディ(南河内地区から) ツールを使っての日本語の学習方法(川柳の作成「五七五で伝えよう」)
③	1月29日	2時間	50人	箕面市立市民会館	ケーススタディ(豊能地区から) ツールを使っての日本語の学習方法(詩の朗読など)
④	2月12日	2時間 30分	253人	とよなか国際交流センター	ケーススタディ(北河内地区から) 音楽などのツールを活用法の実践 ・各国の言葉であいさつなど
⑤	2月16日	2時間	12人	高槻市富田ふれあい文化センター	ケーススタディ(三島地区から) 交流・グループワーク・ 情報交換
⑥	2月25日	2時間 30分	19人	泉佐野市下瓦屋人権文化センター	ケーススタディ(泉南地区から) 交流・グループワーク 全体討議
⑦	2月26日	4時間	107人	和泉市立人権ふれあいセンター	ケーススタディ(堺・泉北地区から) 色んなツールを使っての効果的に 楽しみながら学べる日本語学習方法(かるた・書道など)
⑧	3月10日	2時間 30分	50人	大阪市立難波市民学習センター	ケーススタディ(大阪市から) コーディネーターの講習会
⑨ 参考	3月18日	4時間	100人		ケーススタディ(中河内地区から)

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

- ・ドラマでしか知らない戦時中の事とかを聞けたり、夜間中学じたいが、自分の中ではニュースでの出来事でしかなく、こんなに身近に感じる事がなかったので、びっくりしま

した。勉強になりました。

- ・字のよみ・かきの獲得によって「見えるもの・見え方が変わりました」というお話が心に強く残りました。識字・日本語教室のみなさんの温かい人間関係も伝わってきました。
- ・「ろじ裏のうた」という朗読劇では、部落解放の昔の姿を再認識させてもらいました。この時期の元気さをどのようにして再成すればよいのかと考えさせられました。言葉に心が通っていて力を感じました。ありがとうございました。
- ・村のおばちゃんの思いが伝わる紙芝居で非常によかった。ネパールの人のいろいろな苦勞がわかり、よかったです。エジプトの方の歌は、元気にさせてもらいました。
- ・日本で生活されている外国人の方々の様々な思いを聞かせてもらい、日本人として客観的に考えられた。戦争責任についてもふれられてよかった。
- ・字を書いて学ぶだけでなく、おしゃべりも識字の勉強だと初めて知りました。ありがとうございました。夜間中学生の方が多くて、その方達の苦勞や苦しみの大変さがよく分かりました。
- ・お一人お一人の背負っておられるものが計り知れず…。人生の先輩としてただただきかせていただくお話がどれも貴重な学びとなりました。私には分からない、若い者には分からない、そこで終わらせず、それでもそこから歩みよってみる勇気を持ちたいと改めて思います。そして自分自身がこれからいろんな場へ足を運び、いろんな人と出会いお話を聞くことをつづけながら、今の自分が伝えられることを自分なりに学校で子どもたちに伝えていきたいと思います。
- ・戦争体験やそのつらさは「若い人にはわからない」との意見があり、「そうですね」で話がまとめられてしまったが、一方で司会者が言われたことも踏まえて、だからこそ、相手の立場に立って考え、受けとめることをやらねば、違う立場にいる者どうしは、一生分かり合うことはできない。そんな論議をしていてどうするのかと思った。論議の内容が、司会者の力量だけにゆだねられるのではない。「討議の柱」をつくって、研究協議に臨むようにすべきだと提案します。
- ・Internationalな雰囲気が大変よかった。世界の人々は皆なでそれぞれに生活の質(QOL)を考えて生活されていることが再認識した。ー世界は広いー
- ・学習意欲に燃えている留学生(外国人)、幼児、生徒、高齢者の真摯な気持ちをよく考えてほしい。

② 実施主体からの研修内容結果評価

研修内容については、学識者や行政職員等による学習支援に関する総合的な内容と、ボランティアどうしが意見・情報交換する内容とが組み込めていて、受講者からは大変有意義であったとの感想が寄せられている。特にディスカッションをする時間を十分設けたことにより、学習支援活動の経験者と未経験者がともに学ぶことができた。

全体研修会にはたくさんの学習者も参加した。支援者どうしの情報交換や学習を中心とした研修だけでなく、さまざまな教室の学習者の声を聞くことから得られる学びは大きい。

本事業の目的の1つは、日本語学習支援者のスキルアップであったが、支援者どうしの情報交換の場が継続的にほしいという意見がとても多いので、他の事業との連携も含め検討していく必要がある。

また、新たな地域人材を発掘し、養成することも目的の1つであったが、「関心はあるがまだ活動はしていない」という受講者も、経験者とともに考え、活発に意見交換がなされており、受講後に日本語教室での活動に参加する意欲がみられた。その意欲を実際の活動につなげていく仕組みも作っていかねばならない。

地区別の研修については、ブロックの市町村行政担当者が地域の実情に応じてよりよい研修会の開催に向けて知恵を出し合いながら企画していく過程も大切にしなければならない。

また、現在活動中の人たちの中には教材や学習の進め方についての悩みを抱えている人も多かったがこのような研修を実施することで、支援者の裾野を拡げるとともに、充実した教室での学習支援活動につなげることができた。

今年度は夜間中学校の生徒の参加に加え全日制高校の生徒の参加もあり、交流の場としても大変有意義であった。広報のあり方にはさらに工夫し、広がりのある取組としていきたい。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

日本語教室の充実のために、以下のような取組みを計画している。

- ・学習者の増加や多様化に対応できるよう、支援者の拡大に取り組む。
- ・必要とされる地域で新たな教室の立ち上げに取り組む
- ・支援者の交流・情報交換を活発にするとともに、課題を共有し、問題解決に取り組む
- ・地域の日本語学習支援ボランティアによる教室に適した教材、その活用の仕方、学習支援の留意点などを研修する機会を提供する

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

大阪府では、学習支援者の養成やスキルアップだけでなく、行政の市町村ネットワークづくりや新たな教室の立ち上げ支援、学習者の多様化に対応できる教材開発、関係情報の一元化発信等、日本語学習活動に総合的に取り組んでいる。

② 研修後の人材活用

この研修に参加した支援者のつながりを継続、拡大していくことで、日本語教室全体のレベルアップとともに、新たな支援者の拡大を図る。

これから支援を始めたいという参加者に対しては、地域の教室を紹介し、実際の活動につなげていけるようにする。

(12) 今後の課題

地域における日本教室に求められる役割は、生活相談、安心できる居場所づくり、学びやすい関係づくり、学習のための仲間づくり、学習の雰囲気づくりなど幅広く、そのすべてがボランティア任せになっている現状がある。

教室と地域がさらに交流を深め、地域全体、社会全体で日本語学習活動を支えていかなければならない。そのためにも、市町村行政担当者とのネットワークづくりは不可欠である。

また支援者どうしが情報を共有し支え合えるネットワークづくりが必要であるが、現状では各教室での活動が精一杯で、他の教室や地域とつながる余裕がないという支援者が多い。また、教室のある地域の地元住民に教室の存在や活動が十分に知られていないところも多い。

外国人にとっても日本人にとっても住みやすい社会づくりが重要であるとの視点を持ち、多文化共生社会における教室の役割を認識しながら活動できる支援者を養成し、教室の基盤を支え、持続可能な活動ができるようしくみや施策のもとで、継続して支援者の資質の向上と新しい人材の発掘・養成をしていかなければならない。



b 識字・日本語教室 ブラッシュアップ研修

1 事業の趣旨・目的

識字・日本語教室には、多様な背景をもつ方々が学習に来られている。地域において、住民同士の交流を主眼としながら識字・日本語学習の支援を行うにあたっては、支援者への継続的な研修や意見交換の場を設けることにより、スキルアップを図ることが重要な課題となっている。

そこで、すでに教室等で活動を行っている支援者(ボランティア)を主な対象として、識字・日本語学習に関連する様々な課題についての学習機会をつくり、教室運営の質の一層の向上をはかることを目的として本事業を実施する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
8月31日	大阪府新別館北館 職員会議室7、8	太原 敏 森田 光弘 大久保 章 西本 和子 宮田 潤 赤井 毅彦	識字・日本語教室 ブラッシュアップ研修 研修の企画について	・受講者を拡大するため、日程、会場、講師及び効果的な案内のあり方について協議した。

		山上 清 石田 俊彦 野海 房幸 三宅 克英 北村 正和 田村 幸子		
2月9日	大阪府庁本館第2共用会議室	金 輝美 太原 敏 森田 光弘 岡本 龍三 大久保 章 橋本ヒサ子 中村 渚 赤井 毅彦 山上 清 石田 俊彦 野海 房幸 三宅 克英 北村 正和 田村 幸子	各講座のふりかえり	受講者アンケートの分析を行い、今後の支援者拡大に向けて解決すべき課題を整理した。



3 講座の内容について

(10) 講座名

「識字・日本語学習や多文化共生を支えているボランティアのための講座」

(11) 目標

学習支援や地域における多文化共生を進めるにあたっての前提となることながら、関連する周辺領域について深く学ぶことで、あらためて、地域に根ざした教室運営の意義と役割を確認するとともに、支援者(ボランティア)のエンパワメントとスキルアップを図る。

(12) 受講者の総数 31人 (延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

(出身・国籍別内訳 日本 30人, 中国 1人)

(13) 開催時間数(回数) 30時間 (10回)

講義 30時間 (10回) *各回にワークショップ等(実習)の時間を含む

(14) 参加対象者の要件

識字・日本語教室の運営などに携わる支援者(ボランティア)など

(15) 受講者の募集方法

- ・チラシ(識字・日本語教室、大阪府識字・日本語学習担当者会議等)
- ・ホームページ(おおさか識字・日本語センター、大阪市生涯学習情報提供システム)

(7) 会場

ア 講義 市民活動プラザおおさか西館(大阪市東淀川区東中島 2-20-18)

イ 実習 同上

(8) 使用した教材・リソース

教材については、各回を担当する講師が作成・準備したものを使用

(9) 講座内容

日時	講座名/学習内容	講師	受講者数
10月22日(土) 13:30~ 17:30	対人援助の基礎を学ぶ 自己決定をサポートするためのかわりあいについて考えます	ホリスティック教育実践研究所 所長 金香百合	10名
10月29日(土) 13:30~ 16:30	非言語コミュニケーションを体験してみる 言葉へのとらわれから自由になることで、その価値を再確認します	楽しく変化を起こす劇的ワークショップ主宰 松田 裕樹	9名
11月12日(土) 13:30~ 15:30	大阪市の帰国・来日等の子どもの教育の取り組み 学校教育における子どもへの支援について、報告をもとに考えます	大阪市教育委員会事務局指導部 指導主事 近藤 真	8名
11月26日(土) 13:30~ 16:30	国際的な識字研究の動向と日本の識字教育 イギリスの事例を中心に、広い視野から日本の現状を位置づけます	京都女子大学発達教育学部准教授 岩槻 知也	9名
12月3日(土) 13:30~ 16:30	多文化な子どもへの支援を考える 事例報告から、子どものまなびをめぐる課題と連携を考えます	こどもひろば事務局長 鶴飼 聖子	10名
12月17日(土) 13:30~ 16:30	違いを豊かさにーエンパワメント志向の学び創りー グループダイナミクス(集団力学)の視点で多文化共生を考えます	立命館大学生存学研究センター リサーチアシスタント 梁 陽日	14名
1月14日(土)	とよた日本語学習支援システムの取り組み	とよた日本語学習支援システム	20名

13:30～ 16:30	企業での教室開設支援も含む包括的なし くみを報告いただきます	システム・コーディネーター 北村 祐人	
1月21日(土) 13:30～ 16:30	日本語学習支援・多言語相談等の取組み アイハウスの活動を報告いただき、国際交 流協会等との連携を考えます	大阪国際交流センター情報企 画部 参事 木村真奈美	12名
1月28日(土) 13:30～ 16:30	教材、運営、学習者の定着など…相談を担 う現場から 今、求められる“学びの場”の最新情報を 提供します	おおさか識字・日本語センター 研修教材担当 田村 幸子	17名
2月4日(土) 13:30～ 16:30	地域で生活日本語に関わるために 識字・日本語ボランティアのつながりが地 域を支える力になります	大阪市地域識字・日本語交流教室SV、 国際研修協力機構日本語指導アドバイザー 石橋由紀子	15名

(10) 講座の評価

④ 受講生に対するアンケート

各回終了後に実施したアンケートで、講座の満足度について5段階評価で記入し
てもらったところ、全10回の講座全体で、111名から回答を得た。

内訳〔実数・比率・(無記入を除いた場合の比率)〕は、以下のとおりである。

「たいへん良かった」65名・59%(68%)

「良かった」29名・26%(30%)

「ふつう」2名・2%(2%)

「あまり良くなかった」0名・0%(0%)

「良くなかった」0名・0%(0%)

「無記入」15名・14%

「たいへん良かった」と回答した人が約6割(無記入者を除くと約7割)にのぼり、
「良かった」と回答した人を合わせると、ほぼ全ての人が満足されており、否定的な
回答はなかった。受講者にとっては期待どおりの内容で、満足度が高くなったと考え
られる。

また、アンケートにおける自由記述欄での主な意見は以下のとおりである。

- ・対人援助という意味の再認識をいたしました。
- ・日頃のコミュニケーション癖にも気づけて良かったし、人の温かさに久々にふれる
ことができ、心ホッカホカです。
- ・日頃、言葉に頼ったコミュニケーションに偏りがちな中で、今日のように体を使って
実際に体験してその有効性を実感できて、とても良かったと思います。
- ・いろいろな教室の方と話が出来たことは何よりもよかったと思います。
- ・市内小中学校の在日外国人の学習事情がうかがえて、大変よかったと思います。
- ・生活に密着したことば 学習者の話をじっくり聞く、教室に何を求めてきたかをじっく
り聞く。いつも心に留めてはいますが、改めて考えさせられました。
- ・子ども関連の問題は子ども本人のみの問題ではないので、大変難しいものだとあ

らためて感じました。

・日本語ボランティアを大きい目で見ることの大切さ、日本のおかれている位置など、大いに勉強させて頂きました。

・集団力学についてきちんと整理できたように思います。地域日本語教室は、流動的で(新規参加者が常にいる)、グループの成熟に至らず、共有作業が必要で、運営者のしんどさがあるのだと判りました。それでも少しずつ作業し続ける、分かち合うことをやめないことが大切だと思います。

・学習者のレベル判定シートが細かく決められており、客観性が高く、インタビューの感覚によらない様になっているのに感心しました。

・国際交流センターの方から「日本語教育は行政がすべき」などの今の状況をしっかり把握され、力強いお話が聞けると思わなかったのも、とても嬉しく、自分もがんばろうと思えた。

・学習者の立場に立ってみる経験は、とても良かったです。学習者の気持ちが実感できました。

・今後の教室のあり方として、個性を打ち出すというお話、又、教室の仲間での時間を持つ重要性など、考えさせられるお言葉を頂けて、自分の今後の活動も考えたいと思いました。

・先生の実体験を具体的に聞くことができ、とても有意義だった。「自分を知る」「横のつながり」が大切だと感じた。

・何が大切か、また教室全体で、パートナー同士でのコミュニケーションの重要性を学ぶことができ、大変有意義でした。

以上のように、参加者が、各回ごとに、テーマに沿った学びを得ていることがよくわかる記述となっている。また、他教室のボランティアと情報交換する機会があつて大変良かったとの記述も多く、ワークショップやグループワーク、グループ討議などの手法を通じて交流することで、さまざまな刺激を受け、気づきが広がり、より学びが深まったと考えられる。

⑤ 実施主体からの研修内容結果評価

対人援助の基礎、非言語コミュニケーションによる言葉の問い直し、こどもの課題との関わり、識字研究の国際動向、集団力学や教室運営、学習支援のシステム構築など、様々な領域について深く学ぶ機会を提供することができた。

また、これらの学習を進める中で、他教室のボランティアとも交流し、刺激を与えあいながら、あらためて、広い視野から、地域に根ざした教室運営の意義と役割を確認する機会を提供することができた。

これらの学びの内容やスタイルを通じて、当初の目標であった受講者のエンパワメントとスキルアップはもちろんのこと、それだけにとどまらず、活動へのモチベーション

アップや、さらなる学習意欲の亢進につながったと考えている。

⑥ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

日本語交流を通じた外国人支援体制の構築にあたっては、実際の教室活動を担う支援者(ボランティア)の育成並びに継続的で体系的な研修の実施が欠かせない。また、今回の研修でも明らかとなったように、様々な教室のボランティアが横につながり、交流することが、今後の活動への刺激にもなる。

そこで、広域的に、研修の実施予定を把握のうえ、実施時期や場所、内容等を調整し、それらを一括して情報提供することができれば、より効果的な研修機会の提供につながると考えられる。

今後は、大阪において構築されてきた、識字・日本語に関するセンター的機能を活用し、現場のニーズを汲みとりながら、これら研修の把握と調整、情報提供を行うことで、引き続き人材養成の面から支援体制を構築していく。

(11) 事業の成果

③ 他事業との連携

学校教育における帰国・来日等の子どもの教育の取組み、集住地域におけるシステム化された日本語学習支援の取組み、国際交流センターにおける日本語教育の取組みなどを研修内容に組み込むことで、今後の連携につながる基礎をつくることができた。

とりわけ、外国にルーツを持つ子どもの教育については、それぞれの子どものバックグラウンドが複雑化・多様化しており、それらへの対応は喫緊の課題となっている。主に成人を対象とした教室における子どもへの対応、学校教育との連携の課題について、継続して取り組む必要がある。

④ 研修後の人材活用

受講者はすでに何らかの活動をされている人であり、研修成果が日常の活動に生かされている。これらの状況については、研修終了後、一定期間をおいたあとに、事後アンケートという形式やオプション・プログラムとしての交流研修の実施などにより、その活用状況を把握していくことを検討している。

なお、すでに受講者からは、大阪府域内の国際交流センターの取組みをテーマに交流できないかとの意見があり、今後の活動支援の一環として検討することも考えられる。

さらに、一部自治体では、今回の実践研修に参加された受講者を中心メンバーとして、研修プログラム開発に取り組んでいるところもあり、現場ニーズをふまえた研修の取組みに、受講者自身が携わるといった人材活用も行われつつある。

(12) 今後の課題

受講者の満足度は高かったものの、全体として受講者数は少なかった。委託事業の手続き上の問題もあるが、実際に研修を開始できる時期が遅れるほど、広報期間が十分にとれなくなる。また、域内における研修が同時期や同じ曜日・時間帯に開催されるなど、講師交渉や会場の都合などとも関係するので簡単ではないが、調整が十分でなかった面がある。これらを反省点とし、今後の効果的な広報や実施時期の調整等を課題とすべきである。

なお、1回の研修あたり3時間という設定は、各テーマに十分な時間が取れるため、参加された人にとっては満足度が高まるが、一方で、申し込みにあたっては負担感が大きくなるため、受講者数の減につながった可能性がある。ボランティア実践研修としては今回の設定が一定の意味があったと考えられるが、費用対効果の点では(トレードオフの関係にあると考えられるが)課題を残している。

さらに、研修受講直後のアンケートだけでなく、研修内容がどの程度、実際の活動において活用できたか／できなかったかを確認する追跡アンケートなどにより、研修成果を検討することも課題と考えられる。



小グループでの話し合いのようす。他教室のボランティアとの交流も貴重な時間です。



話をきくだけでなく、体を使って、さまざまなワークを行うことで、実感的に理解していきます。



3時間という長さを感じさせない充実した資料と内容で、深く学びます。



「話せない学習者」のロールプレイ。
どのように対応するか、体験的に共有
し、さまざまな気づきを得ていきます。